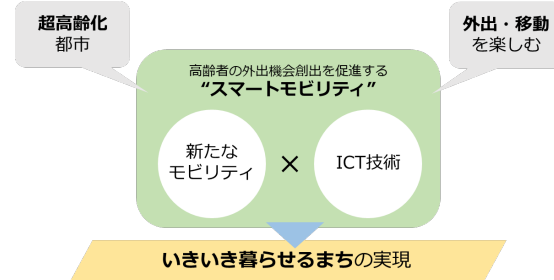


1 調査の背景・目的

- ・高齢者が健康で元気に暮らすことは、地域活性化や社会保障負担の抑制にもつながり、持続可能なまちづくりの実現に寄与する。
- ・高齢者が健康で元気に暮らすためには、社会参加の促進が重要。
- ・高齢者の社会参加の促進に、新たな技術(モビリティ・ICT)が活用できるのではないか
- ・本研究は、新たなモビリティによる単なる効率的な移動手段の確保だけでなく、技術とその利活用を連携させた「スマートモビリティ」によって高齢者の外出機会を創出することで、いきいきと暮らせるまちを実現するための方策について調査検討する。



2 アンケート調査:地域活動の参加有無による違い

2-1 調査結果

- ・外出頻度は、地域活動の参加ありとなしに大きな差はない。
- ・普段の過ごし方は、参加ありの人は外に出て過ごし、ない人は家の中で過ごす傾向にある。
- ・参加ありの人は、なしの人に比べて楽しみや生きがいに感じていることが多く、特に友達との交遊や趣味活動で差が大きい傾向がある。
- ・身近な地域の活動に参加している人は、健康で満足度が高い傾向にある。
- ・地域活動を楽しむために、内容が魅力的であることと同じくらい内容がわかることが大事、移動手段も必要。

2-2 まとめ

- ・高齢者が楽しみや生きがいを持って生活ができるために、身近な地域活動への参加が有効。
- ・身近な地域活動への参加を促進するために、
 - ①イベント情報等の効果的な発信 ②外出時の移動支援 ③新たなサービスで外出機会の創出が必要となる。

3 スマートモビリティによる現地調査

3-2 現地調査の内容

- ・パーソナルモビリティにスマートフォンを取り付けた「スマートモビリティ」により、高齢者の外出支援の有効性を検証することを目的。
- ・同町のまちづくり団体「正色学区生活安全委員会」が、地域の魅力向上のために作成した、デジタル地図「下之一色町案内」をスマートフォンで表示させ、まち巡りを実施。



明治以降の写真が年代別で色分け
任意の地点を選択すると、昔の写真を閲覧可能



3-3 調査結果

- 1) 試乗した感想
 - ・男女共、100%が楽しかったと回答。
- 2) パーソナルモビリティがどのように役立つか
 - ・全ての項目で均等に回答されていた。
 - ①負担なく移動できる
 - ②買い物や外出ができる
 - ③付添や送迎がなくても外出できる
 - ④外出するのが楽しくなる
 - ⑤外出機会が増える
- 3) 利用形態
 - ・男性は、5名中3名が個人所有、
 - ・女性は、6名中5名が町民で共有を選択
- 4) 男女共に全員が、一人で外出できると回答。
- 5) 自由意見
 - ・音が静かすぎるので、ぶつかりそうで怖い
 - ・自動で止まるなど衝突防止機能が欲しい
 - ・車から見えるよう、目立つようにすべき
 - ・下りの坂道が心配 など



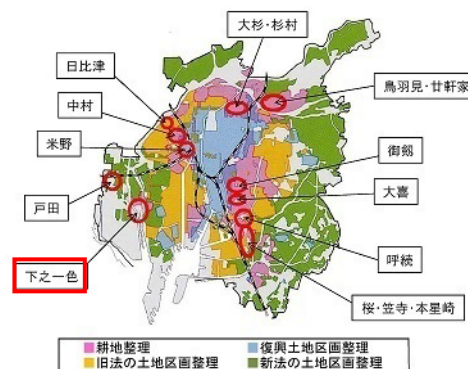
3-4 課題

- ①安全性 ②より効果的な運用 ③シェアリング

3 スマートモビリティによる現地調査

3-1 調査対象地区の概要

- ・市内の木造住宅密集地域の一つ
- ・高齢化率が中川区のなかで突出(60歳以上の割合:約44%)
- ・道幅が狭く、車両の通行がほとんどないため、安全な試行が可能。
- ・名古屋市の「ICTを活用した地域活動支援モデル事業」に選定。



4 まとめ

- ・個々のつながりだけでなく、地域・ICT・交通で連携して高齢者の外出促進策を進めることが重要。
- ・ICT 利活用やパーソナルモビリティの活用は、高齢者の社会とのつながりだけでなく、人とのつながりにもつながる。
- ・ICT とパーソナルモビリティを組み合わせたスマートモビリティは、まち巡りなど、外出の動機づけになり得る。
- ・地域・ICT・交通が連携し、高齢者の多様なニーズに合わせた手段やサービスを提供することで外出促進につなげる。

